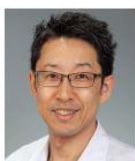


10月に開催された第76回日本胸部外科学会学術集会で、当センター呼吸器外科医長伊坂哲哉、足立広幸が、最優秀演題賞にダブル受賞しました。この学会は呼吸器心臓領域では最難関で、採択率35%と狭き門です。最優秀演題賞は2名選ばれるのですが、呼吸器は当院が独占してしまい、各大学を含む多くの医療機関から大変な注目を浴びました。日頃から患者さんを丁寧に診る事へ注力した賜物と思います。学術活動の成果は世界に発信するとともに、患者さんに良質な手術を提供する形で還元し、引き続き安全安心な医療の実践を継続してまいります。

文責 呼吸器外科部長 伊藤宏之



演題 「積極的区切除において縦隔リンパ節郭清は必要か？」

JCOG0802試験結果から末梢小型肺癌に対し区域切除を施行する機会がこれまで以上に増加する考えます。しかし同試験では区域切除群でも縦隔リンパ節郭清を必須としたため、同対象で縦隔郭清が省略できるかはいまだ不明です。縦隔郭清の省略が可能となれば術後合併症リスクを低減できると考え、今回の研究を立案・実施いたしました。更なる低侵襲化への一助になれば幸いです。 神奈川県立がんセンター 足立広幸

演題 「2cm以下、consolidation tumor比>0.25, cN0非小細胞肺癌に対する区域切除と部分切除後のPropensity-score matching法を用いた予後比較:多施設共同試験」

今回2cm以下、radiological invasive早期肺癌に対する部分切除と区域切除後の予後の差を、多施設共同データベースを用いてpropensity score matching法で解析しました。その結果両群間に全生存、無再発生存、肺癌特異的死亡発生率の差は認めませんでした。本研究が今後両術式を比較する臨床試験を立案する上での基礎的見地となれば幸いです。 神奈川県立がんセンター 伊坂哲哉



左側:足立広幸医長(現在神奈川県立循環器呼吸器病センター勤務) / 右側:伊坂哲哉医長